

ふるさと探訪

第25回

石土神社



小松町妙口にある石土神社は、紀元634年9月9日に

石井郷の里長忌部宿禰八十彦に神託があり、社殿を建立したと伝えられ、この日を神社の紀元としています。

御祭神は、石土毘古神で、中世より石鎚山の西登山口として石鎚信仰の人々で賑わいました。また、戦国時代には剣山城主黒川氏の武神としても信仰されました。

石土神社を訪れると、真っ先に目に入るのが、高さ約9・5メートルの高灯籠です。この高灯籠は、昭和6年にコンクリートで建造されたもので、ちょうど民間レベルでコンクリートが使われ始め



▲ 登録有形文化財の高灯籠
石土神社の境内 ▶



た頃の建造物です。古くは、電球を使用し、毎日スイッチを入れて明かりを灯していましたが、現在はセンサーによって暗くなれば蛍光灯が点灯するようになっていきます。

この灯籠は、現在も道の安全と人々の暮らしを照らす貴重な近代化遺産として平成13年に文化庁の登録有形文化財に指定されています。

■住所 小松町妙口甲713
■駐車場 あり

